

## Ⅱ 調査の結果

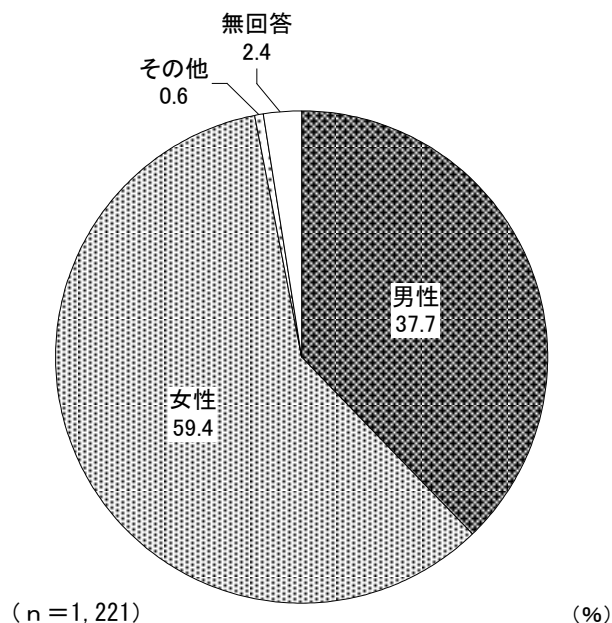


## II 調査の結果

### 1 回答者の属性

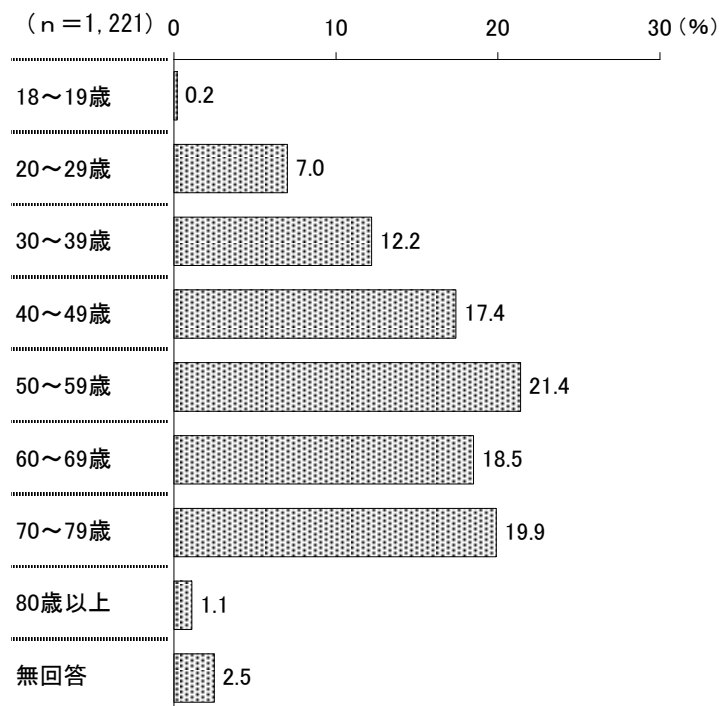
#### (1) 性別

○「男性」が37.7%、「女性」は59.4%となっており、「女性」が「男性」を21.7ポイント上回っています。また、「その他」は0.6%となっています。



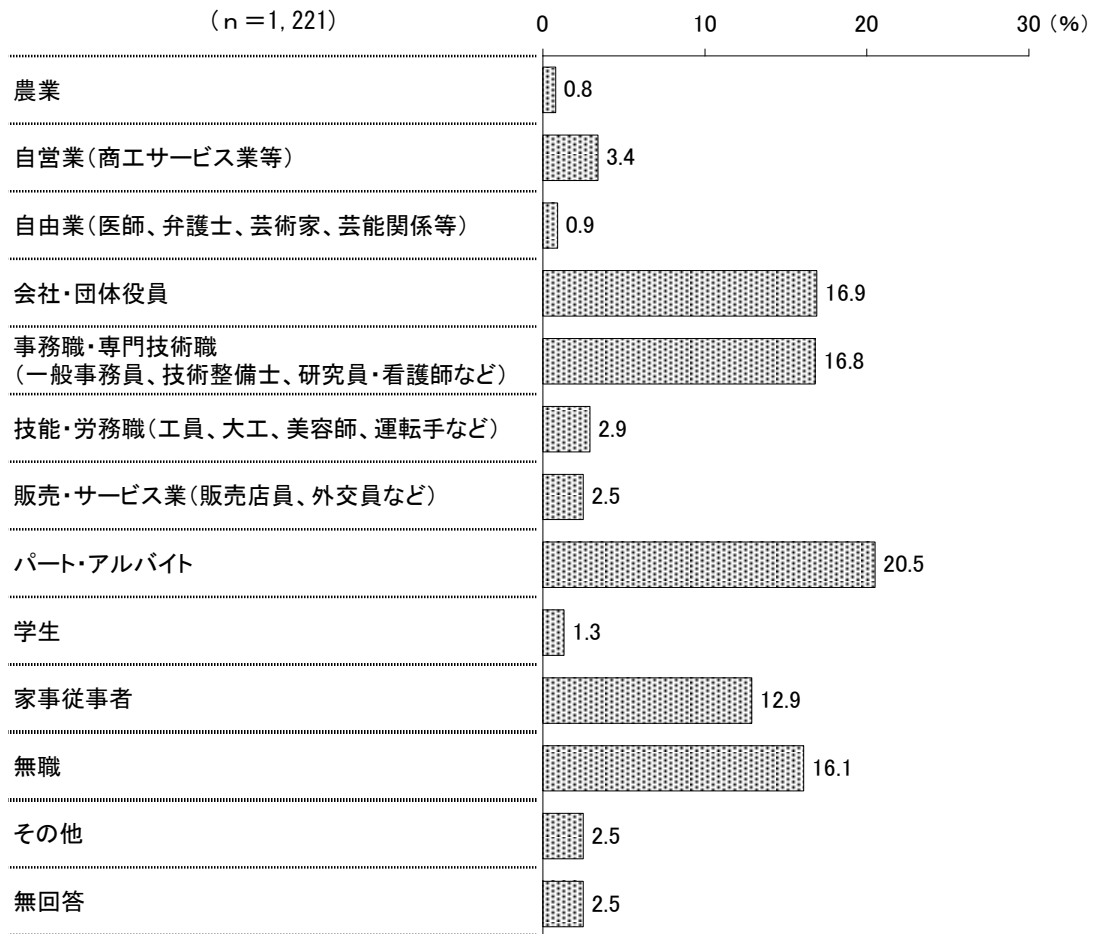
#### (2) 年齢

○「50～59歳」が21.4%で最も高く、次いで「70～79歳」(19.9%)、「60～69歳」(18.5%)の順となっています。また、60歳以上の回答者は全体の約4割となっています。



(3) 職業

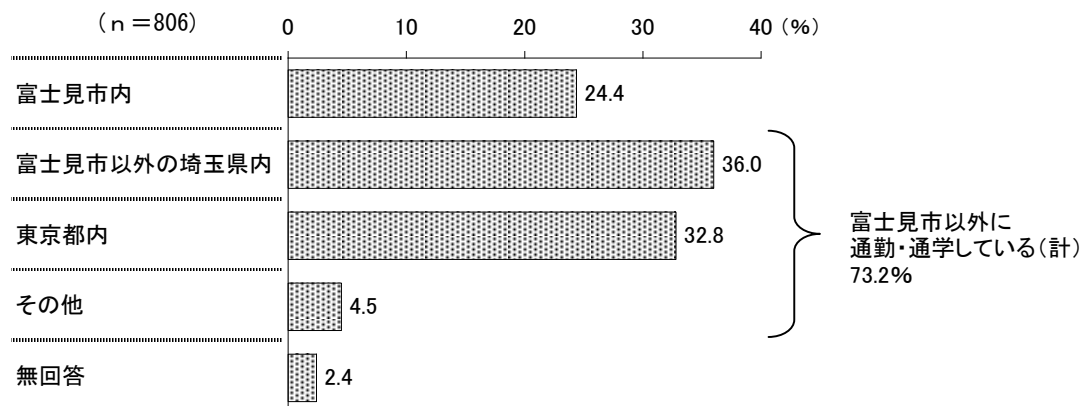
○「パート・アルバイト」が20.5%で最も高く、次いで「会社・団体役員」(16.9%)、「事務職・専門技術職」(16.8%)、「無職」(16.1%)、「家事従事者」(12.9%)の順となっています。



(4) 通勤・通学先

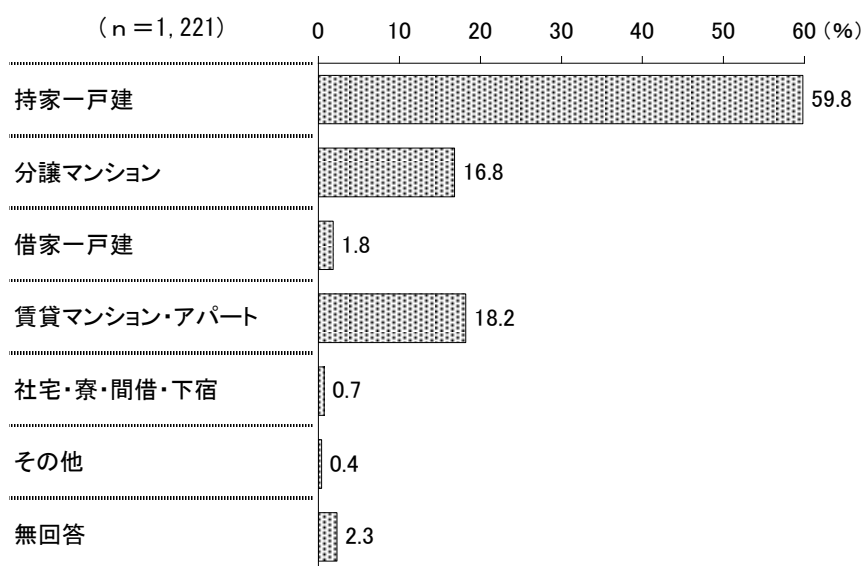
○「富士見市以外の埼玉県内」が36.0%で最も高く、次いで「東京都内」(32.8%)、「富士見市内」(24.4%)の順となっています。

○「富士見市以外の埼玉県内」、「東京都内」、「その他」を合わせた『富士見市以外に通勤・通学している』回答者は、全体の73.2%となっています。



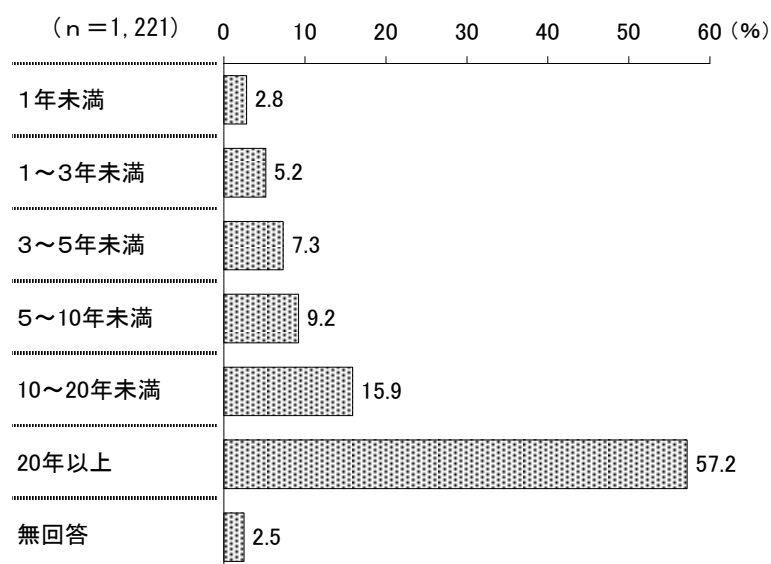
## (5) 住居形態

○「持家一戸建」が59.8%で最も高く、次いで「賃貸マンション・アパート」(18.2%)、「分譲マンション」(16.8%)の順となっています。



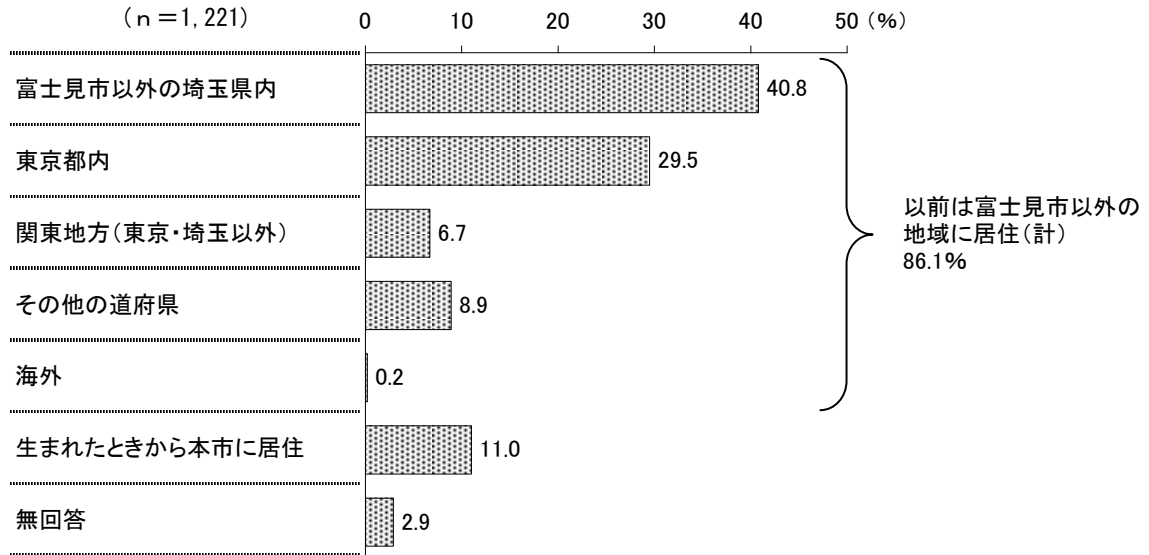
## (6) 居住年数

○「20年以上」が57.2%で最も高く、次いで「10～20年未満」(15.9%)、「5～10年未満」(9.2%)の順となっています。



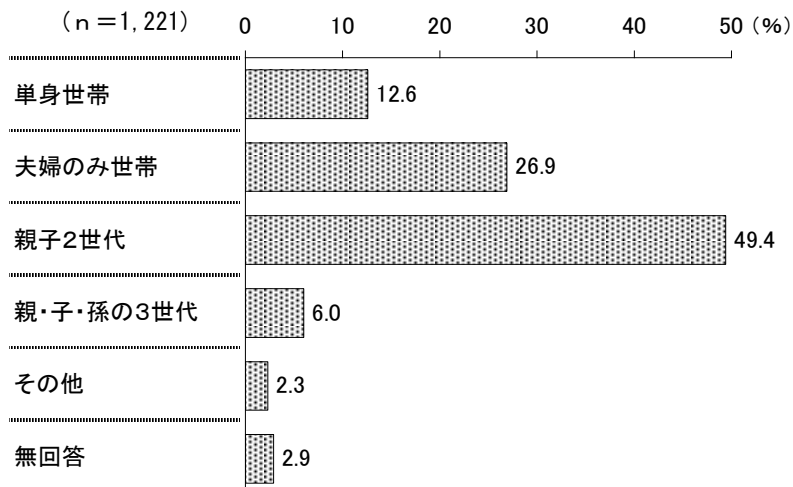
(7) 以前の居住地

- 「富士見市以外の埼玉県内」が40.8%で最も高く、次いで「東京都内」(29.5%)、「生まれたときから本市に居住」(11.0%)の順となっています。
- 「富士見市以外の埼玉県内」、「東京都内」、「関東地方(東京・埼玉以外)」、「その他の道府県」、「海外」を合わせた『以前は富士見市以外の地域に居住』していた回答者は、全体の86.1%となっています。



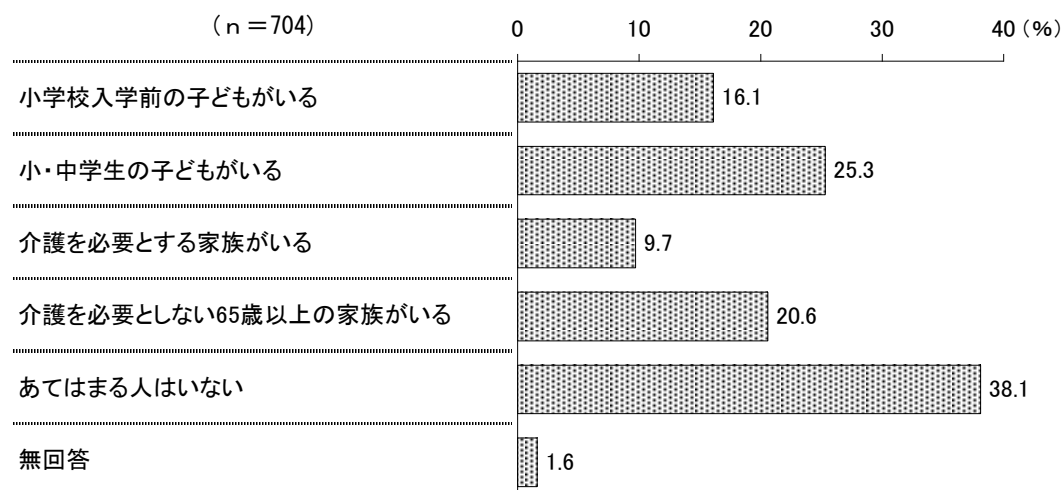
(8) 家族構成

- 「親子2世代」が49.4%で最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」(26.9%)、「単身世帯」(12.6%)の順となっています。



## (9) 子どもや高齢者の同居有無（複数回答）

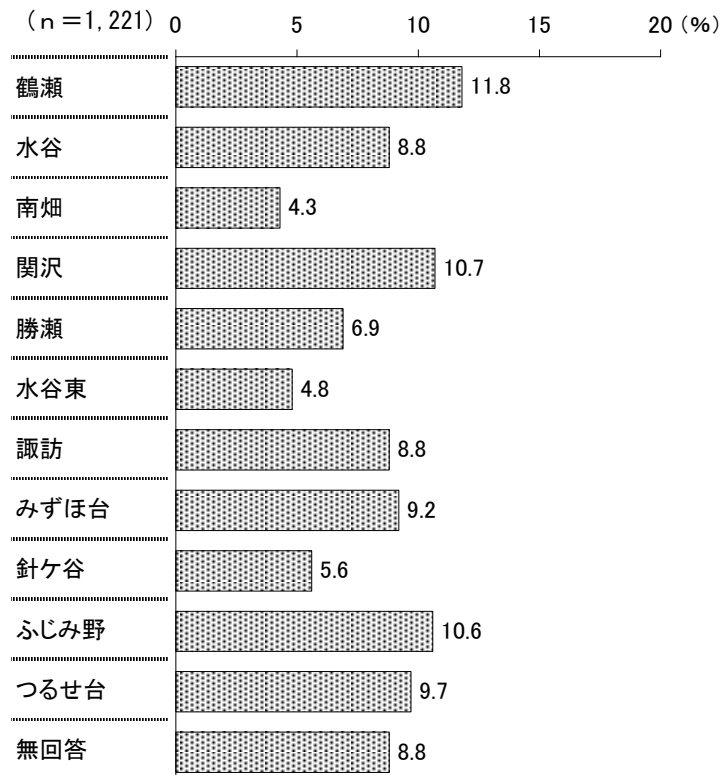
○「あてはまる人はいない（子どもや高齢者、要介護者はいない）」が38.1%で最も高く、次いで「小・中学生の子どもがいる」(25.3%)、「介護を必要としない65歳以上の家族がいる」(20.6%)の順となっています。



(10) 居住地（小学校区）



○「鶴瀨」が11.8%で最も高く、次いで「関沢」(10.7%)、「ふじみ野」(10.6%)、「つるせ台」(9.7%)の順となっています。





## 2 定住に関する意識

### (1) 現在の住みごころ (問1)

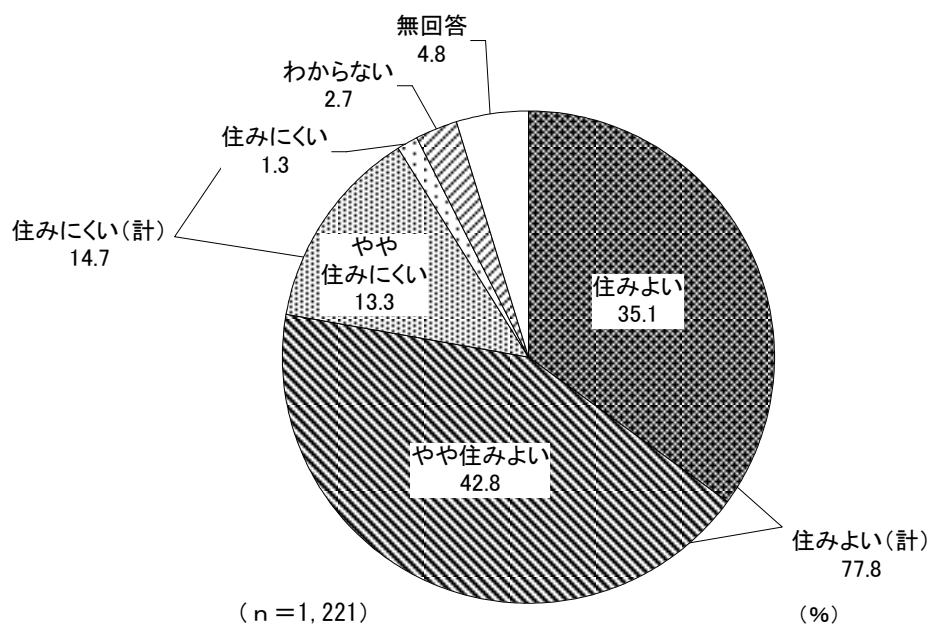
◇『住みよい』は77.8%となっています

○富士見市での現在の住みごころを聞いたところ、「住みよい」(35.1%)と「やや住みよい」(42.8%)を合わせた『住みよい』は77.8%となっています。

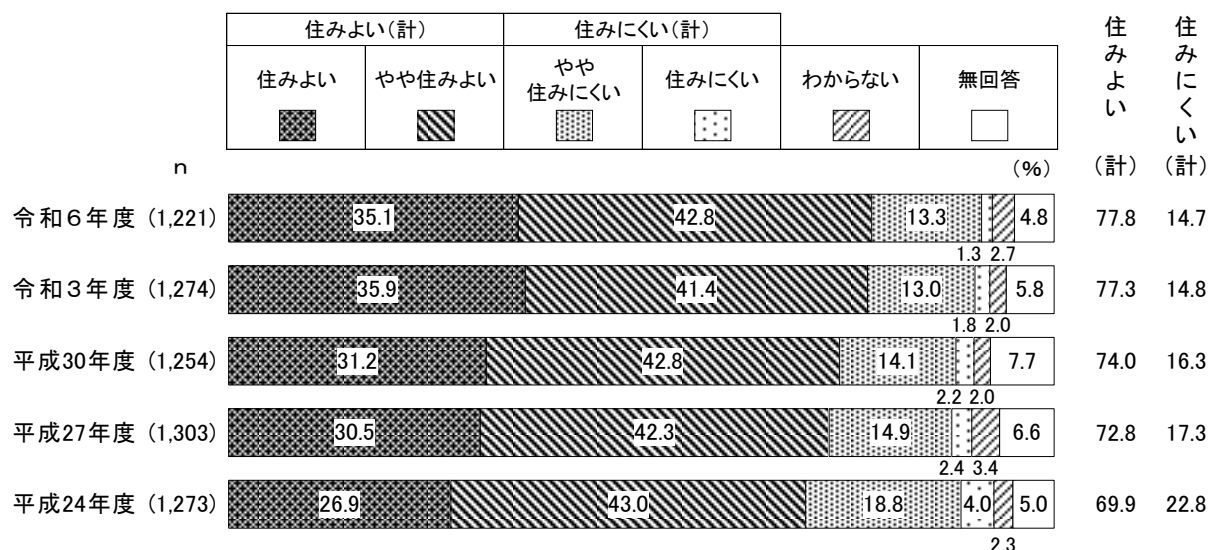
一方、「やや住みにくい」(13.3%)と「住みにくい」(1.3%)を合わせた『住みにくい』は14.7%となっており、『住みよい』が『住みにくい』を63.1ポイント上回っています。

○現在の住みごころを過去の調査と比較すると、『住みよい』は平成24年度以降増加傾向にあります。

#### ■現在の住みごころ

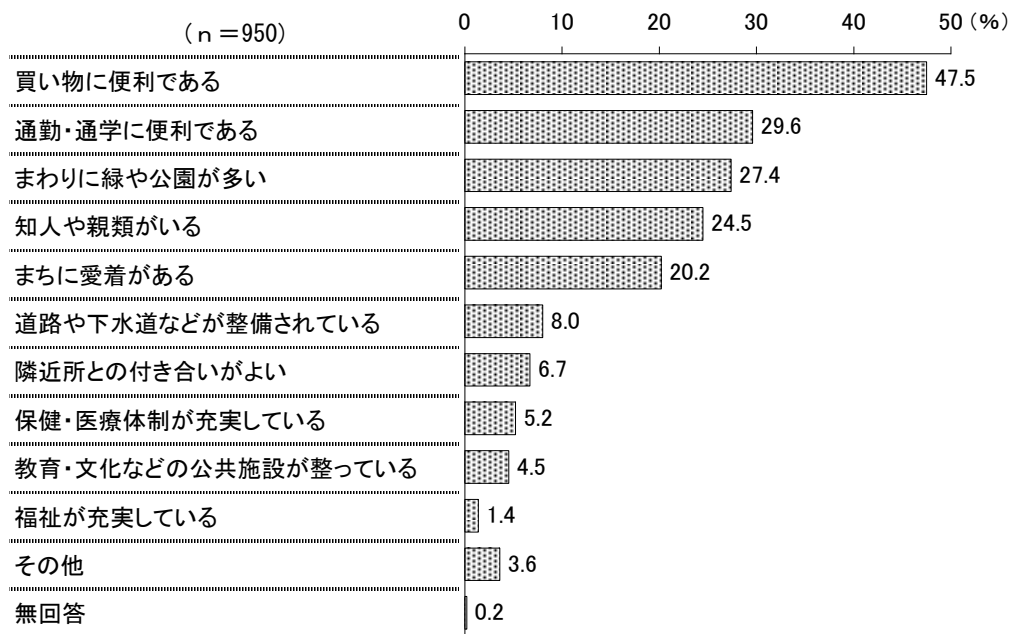


#### ■現在の住みごころ一経年変化

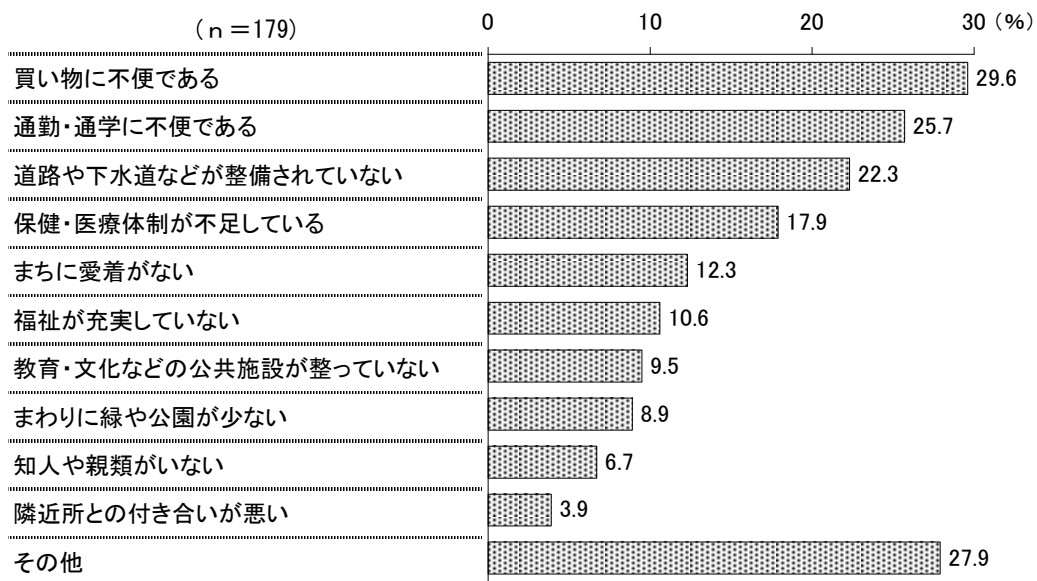


- 『住みよい』と答えた理由を聞いたところ、「買い物に便利である」が47.5%で最も高く、次いで「通勤・通学に便利である」(29.6%)、「まわりに緑や公園が多い」(27.4%)の順となっています。
- 『住みにくい』と答えた理由を聞いたところ、「買い物に不便である」が29.6%で最も高く、次いで「通勤・通学に不便である」(25.7%)、「道路や下水道などが整備されていない」(22.3%)の順となっています。

■住みよい理由（2つまでの複数回答）

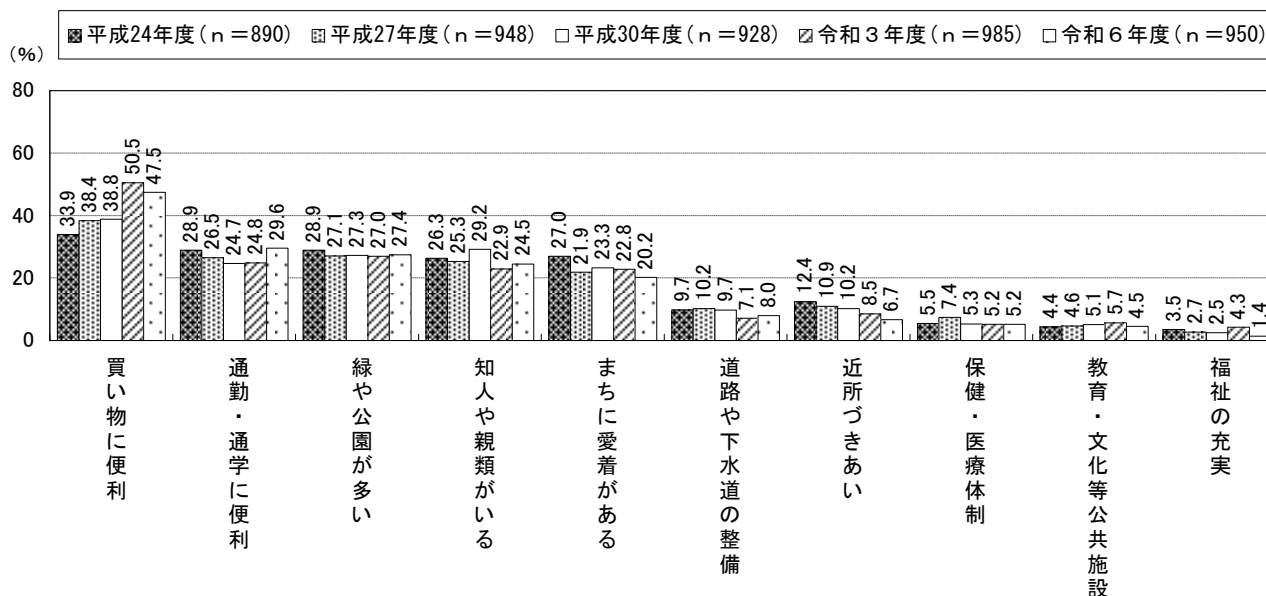


■住みにくい理由（2つまでの複数回答）



○住みよい理由を過去の調査と比較すると、「買い物に便利である」は前回調査から3.0ポイント（50.5%→47.5%）減少しているものの、平成24年度以降、第1位を維持しています。  
 また、「通勤・通学に便利である」は前回調査から4.8ポイント（24.8%→29.6%）の増加となっています。

■住みよい理由一経年変化



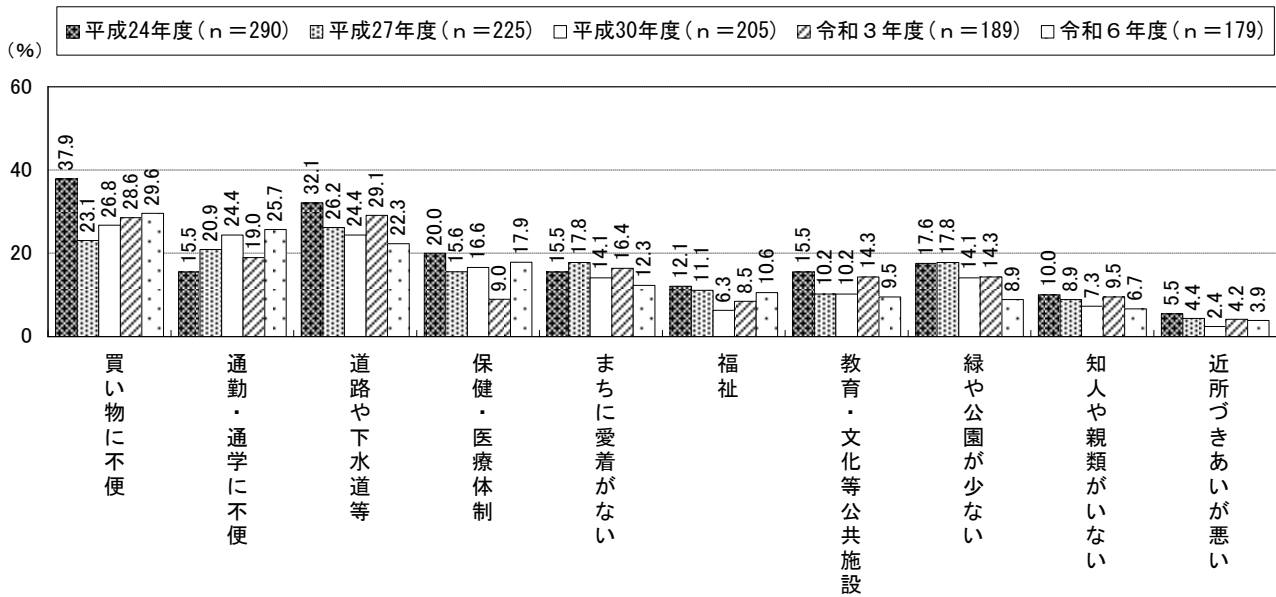
■住みよい理由一経年変化（割合の高い順）

理由	平成24年度 (n=890)	平成27年度 (n=948)	平成30年度 (n=928)	令和3年度 (n=985)	令和6年度 (n=950)
買い物に便利	33.9	38.4	38.8	50.5	47.5
緑や公園が多い	28.9	27.1	27.3	27.0	27.4
通勤・通学に便利	28.9	26.5	24.7	24.8	29.6
まちに愛着がある	27.0	21.9	23.3	22.8	20.2
知人や親類がいる	26.3	25.3	22.9	22.9	24.5
近所つきあい	12.4	10.9	10.2	8.5	6.7
道路や下水道の整備	9.7	10.2	9.7	7.1	8.0
保健・医療体制	5.5	7.4	5.3	5.2	5.2
教育・文化等公共施設	4.4	4.6	5.1	5.7	4.5
福祉の充実	3.5	2.7	2.5	4.3	1.4

(注) 表中の網かけの項目は、今回調査で最も回答の割合が高い項目を示す。

○住みにくい理由を過去の調査と比較すると、「買い物に不便である」、「通勤・通学に不便である」、「道路や下水道などが整備されていない」が平成27年度以降、上位3項目となっています。また、「保健・医療体制が不足している」は8.9ポイント（9.0%→17.9%）増加し、「道路や下水道などが整備されていない」は6.8ポイント（29.1%→22.3%）減少しています。

■住みにくい理由一経年変化



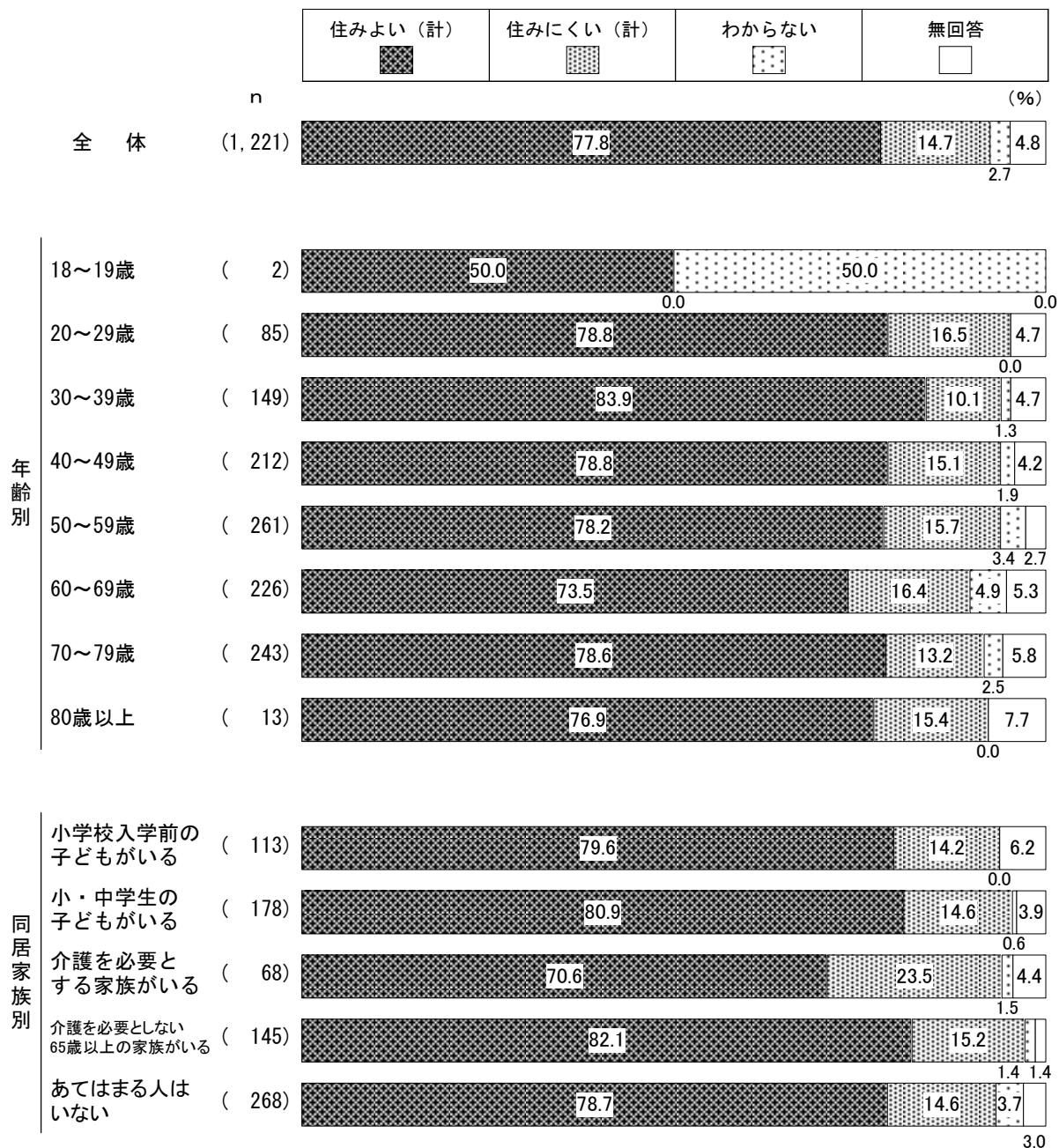
■住みにくい理由一経年変化（割合の高い順）

平成24年度 (n=290)	平成27年度 (n=225)	平成30年度 (n=205)	令和3年度 (n=189)	令和6年度 (n=179)
買い物に不便 37.9	道路や下水道等 26.2	買い物に不便 26.8	道路や下水道等 29.1	買い物に不便 29.6
道路や下水道等 32.1	買い物に不便 23.1	道路や下水道等 24.4	買い物に不便 28.6	通勤・通学に不便 25.7
保健・医療体制 20.0	通勤・通学に不便 20.9	通勤・通学に不便 24.4	通勤・通学に不便 19.0	道路や下水道等 22.3
緑や公園が少ない 17.6	まちに愛着がない 17.8	保健・医療体制 16.6	まちに愛着がない 16.4	保健・医療体制 17.9
通勤・通学に不便 15.5	緑や公園が少ない 17.8	まちに愛着がない 14.1	緑や公園が少ない 14.3	まちに愛着がない 12.3
まちに愛着がない 15.5	保健・医療体制 15.6	緑や公園が少ない 14.1	教育・文化等公共施設 14.3	福祉 10.6
教育・文化等公共施設 15.5	福祉 11.1	教育・文化等公共施設 10.2	知人や親類がいない 9.5	教育・文化等公共施設 9.5
福祉 12.1	教育・文化等公共施設 10.2	知人や親類がいない 7.3	保健・医療体制 9.0	緑や公園が少ない 8.9
知人や親類がいない 10.0	知人や親類がいない 8.9	福祉 6.3	福祉 8.5	知人や親類がいない 6.7
近所づきあいが悪い 5.5	近所づきあいが悪い 4.4	近所づきあいが悪い 2.4	近所づきあいが悪い 4.2	近所づきあいが悪い 3.9

(注) 表中の網かけの項目は、今回調査で最も回答の割合が高い項目を示しています。

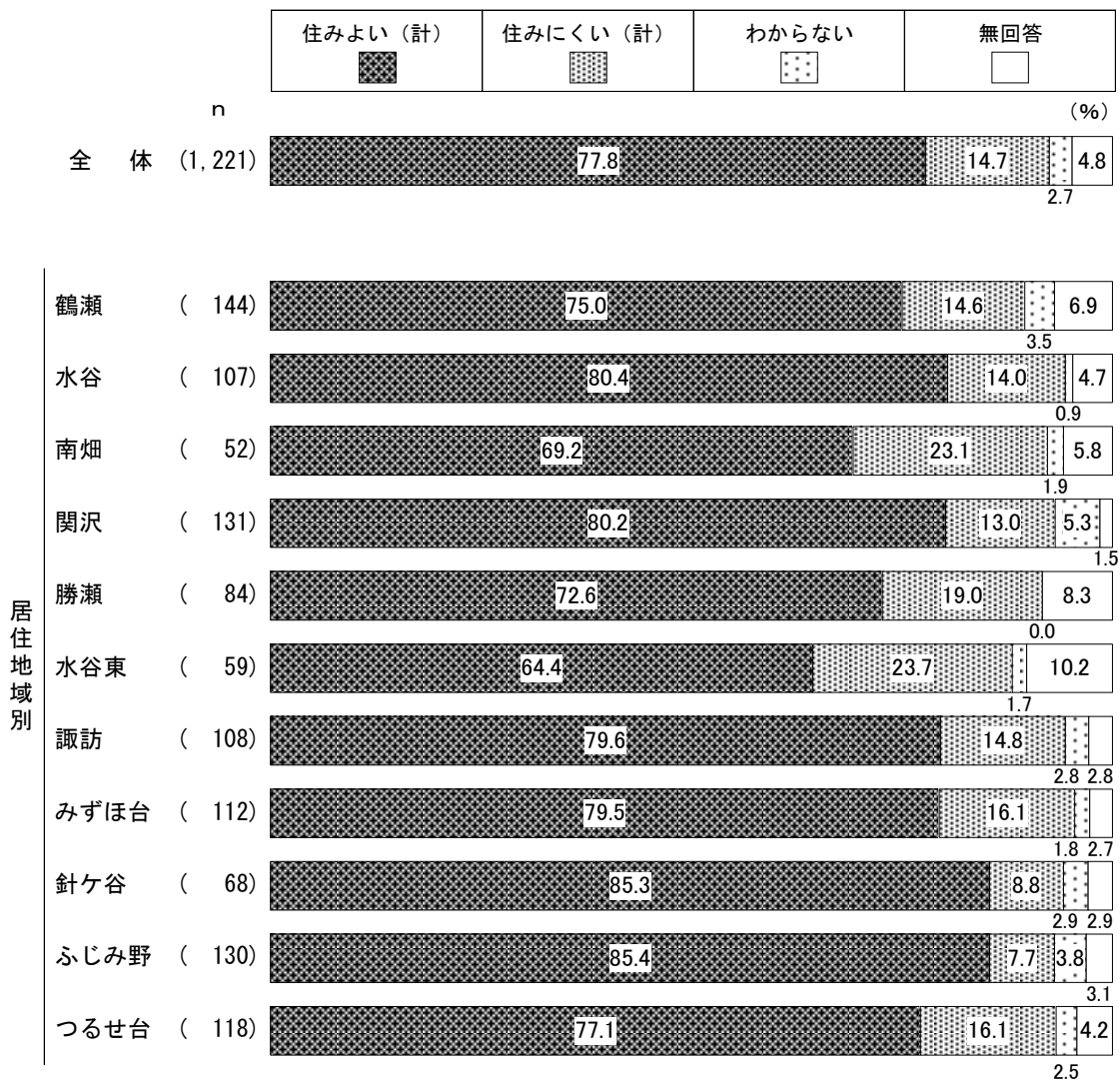
- 現在の住みごちを年齢別にみると、『住みよい』は30～39歳で83.9%と高くなっています。
- 同居家族別にみると、『住みよい』は“介護を必要としない65歳以上の家族がいる”で82.1%と高くなっています。

■現在の住みごち一年齢別・同居家族別



○居住地域別にみると、『住みよい』はふじみ野で85.4%、針ヶ谷で85.3%と高くなっています。  
一方、『住みにくい』は水谷東で23.7%、南畑で23.1%と高くなっています。

■現在の住みごころ—居住地域別



(2) 今後の定住意識 (問2)

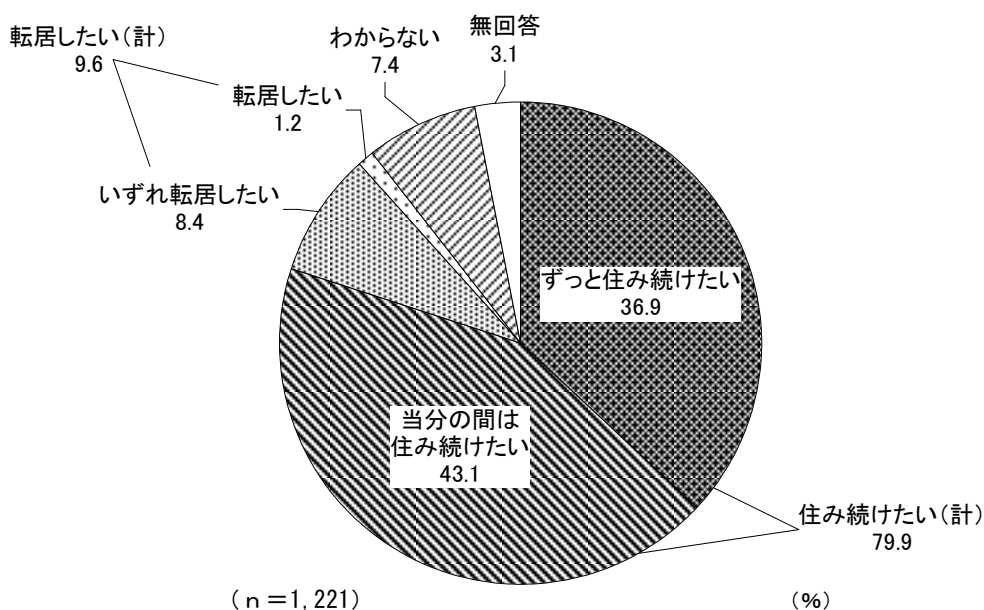
◇『住み続けたい』は79.9%となっています

○今後も富士見市に住み続けたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(36.9%)と「当分の間は住み続けたい」(43.1%)を合わせた『住み続けたい』は79.9%となっています。

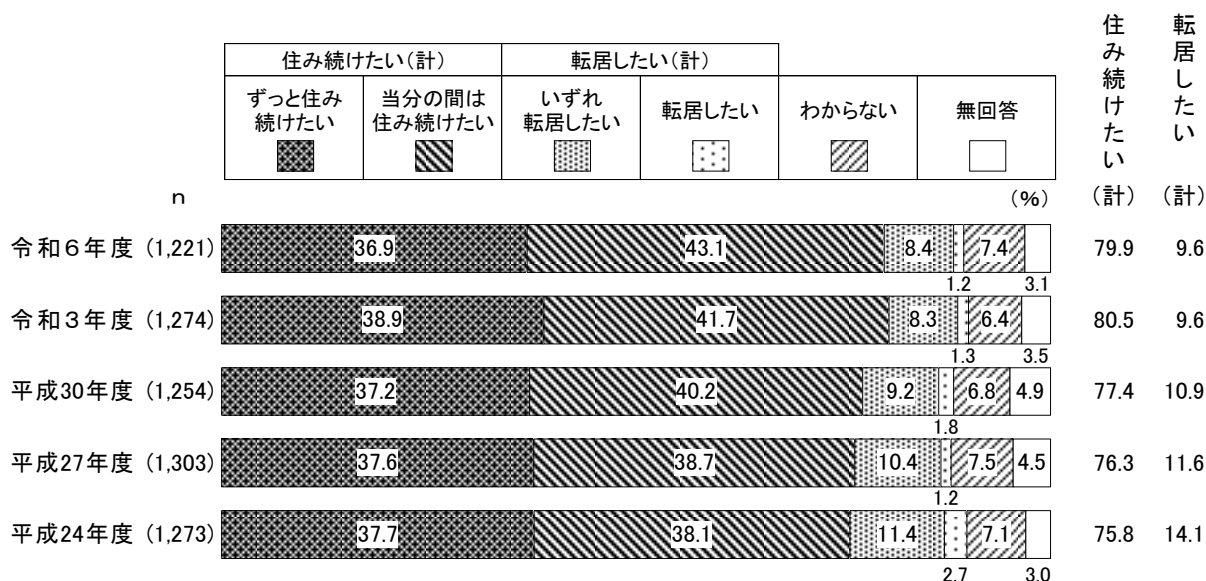
一方、「いずれ転居したい」(8.4%)と「転居したい」(1.2%)を合わせた『転居したい』は9.6%となっています。

○今後の定住意識を過去の調査と比較すると、『住み続けたい』は平成24年度以降増加傾向にあったものの、今回調査では減少に転じています。

■今後の定住意識

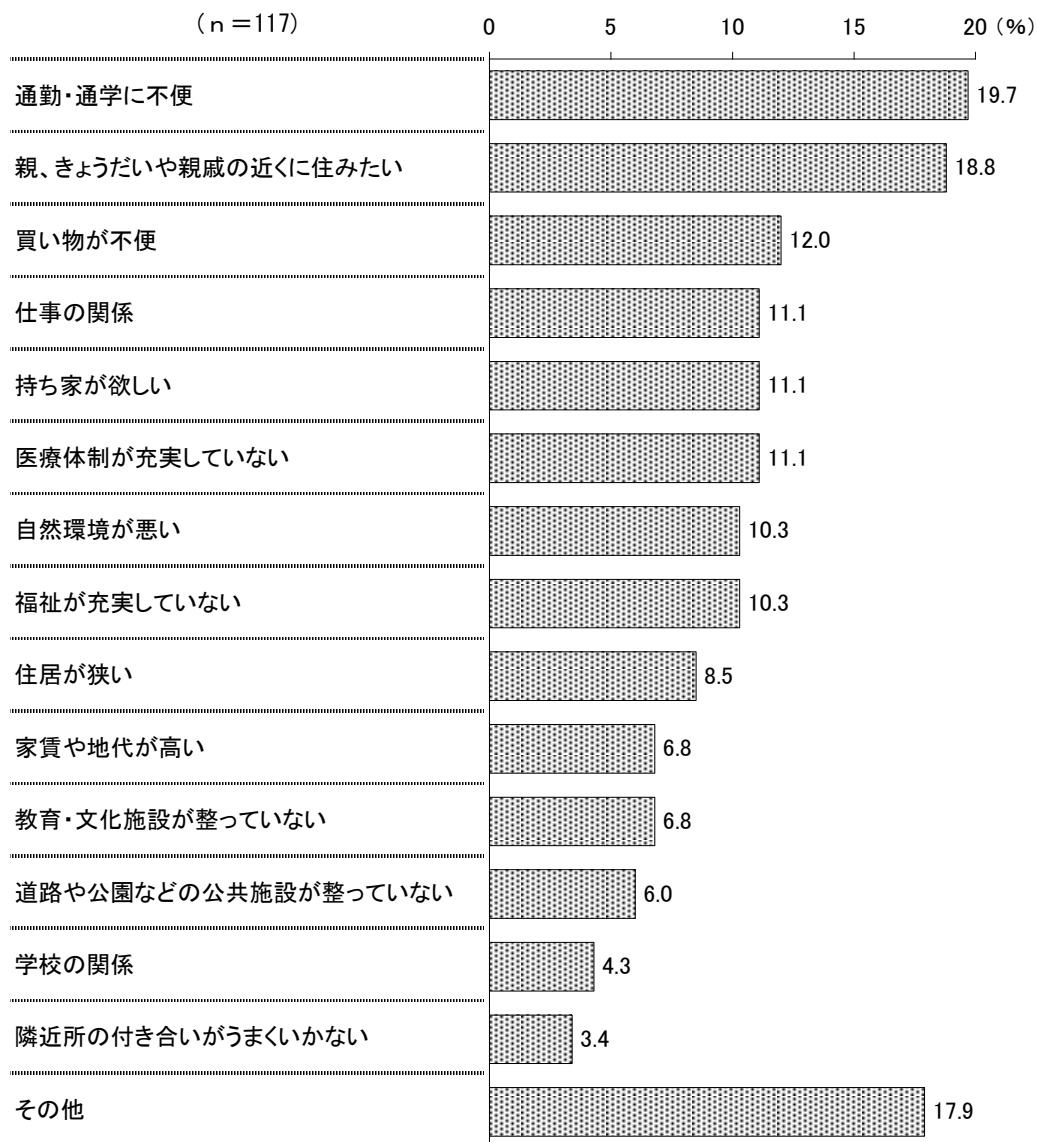


■今後の定住意識一経年変化



○『転居したい』と答えた理由を聞いたところ、「通勤・通学に不便」が19.7%と最も高く、次いで「親、きょうだいや親戚の近くに住みたい」(18.8%)、「買物が不便」(12.0%)の順となっています。

■転居したい理由（2つまでの複数回答）

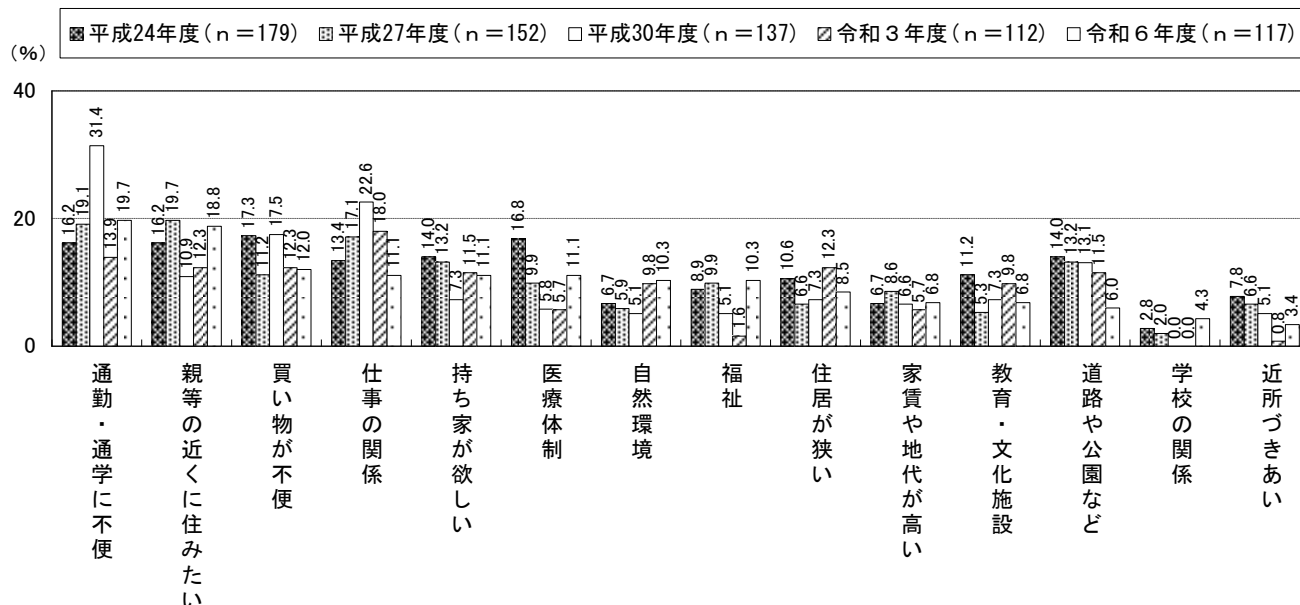




○転居したい理由を過去の調査と比較すると、「福祉が充実していない」は前回調査から8.7ポイント（1.6%→10.3%）の増加となっています。

一方、「仕事の関係」は前回調査から6.9ポイント（18.0%→11.1%）の減少となっています。

■転居したい理由－経年変化



■転居したい理由－経年変化（割合の高い順）

平成24年度 (n=179)	平成27年度 (n=152)	平成30年度 (n=137)	令和3年度 (n=112)	令和6年度 (n=117)
買物が不便 17.3	親等の近くに住みたい 19.7	通勤・通学に不便 31.4	仕事の関係 18.0	通勤・通学に不便 19.7
医療体制 16.8	通勤・通学に不便 19.1	仕事の関係 22.6	通勤・通学に不便 13.9	親等の近くに住みたい 18.8
通勤・通学に不便 16.2	仕事の関係 17.1	買物が不便 17.5	住居が狭い 12.3	買物が不便 12.0
親等の近くに住みたい 16.2	持ち家が欲しい 13.2	道路や公園など 13.1	買物が不便 12.3	仕事の関係 11.1
持ち家が欲しい 14.0	道路や公園など 13.2	親等の近くに住みたい 10.9	親等の近くに住みたい 12.3	持ち家が欲しい 11.1
道路や公園など 14.0	買物が不便 11.2	住居が狭い 7.3	持ち家が欲しい 11.5	医療体制 11.1
仕事の関係 13.4	医療体制 9.9	持ち家が欲しい 7.3	道路や公園など 11.5	自然環境 10.3
教育・文化施設 11.2	福祉 9.9	教育・文化施設 7.3	教育・文化施設 9.8	福祉 10.3
住居が狭い 10.6	家賃や地代が高い 8.6	家賃や地代が高い 6.6	自然環境 9.8	住居が狭い 8.5
福祉 8.9	住居が狭い 6.6	医療体制 5.8	家賃や地代が高い 5.7	家賃や地代が高い 6.8
近所づきあい 7.8	近所づきあい 6.6	自然環境 5.1	医療体制 5.7	教育・文化施設 6.8
自然環境 6.7	自然環境 5.9	福祉 5.1	福祉 1.6	道路や公園など 6.0
家賃や地代が高い 6.7	教育・文化施設 5.3	近所づきあい 5.1	近所づきあい 0.8	学校の関係 4.3
学校の関係 2.8	学校の関係 2.0	学校の関係 0.0	学校の関係 0.0	近所づきあい 3.4

(注) 表中の網かけの項目は、今回調査で最も回答の割合が高い項目を示しています。

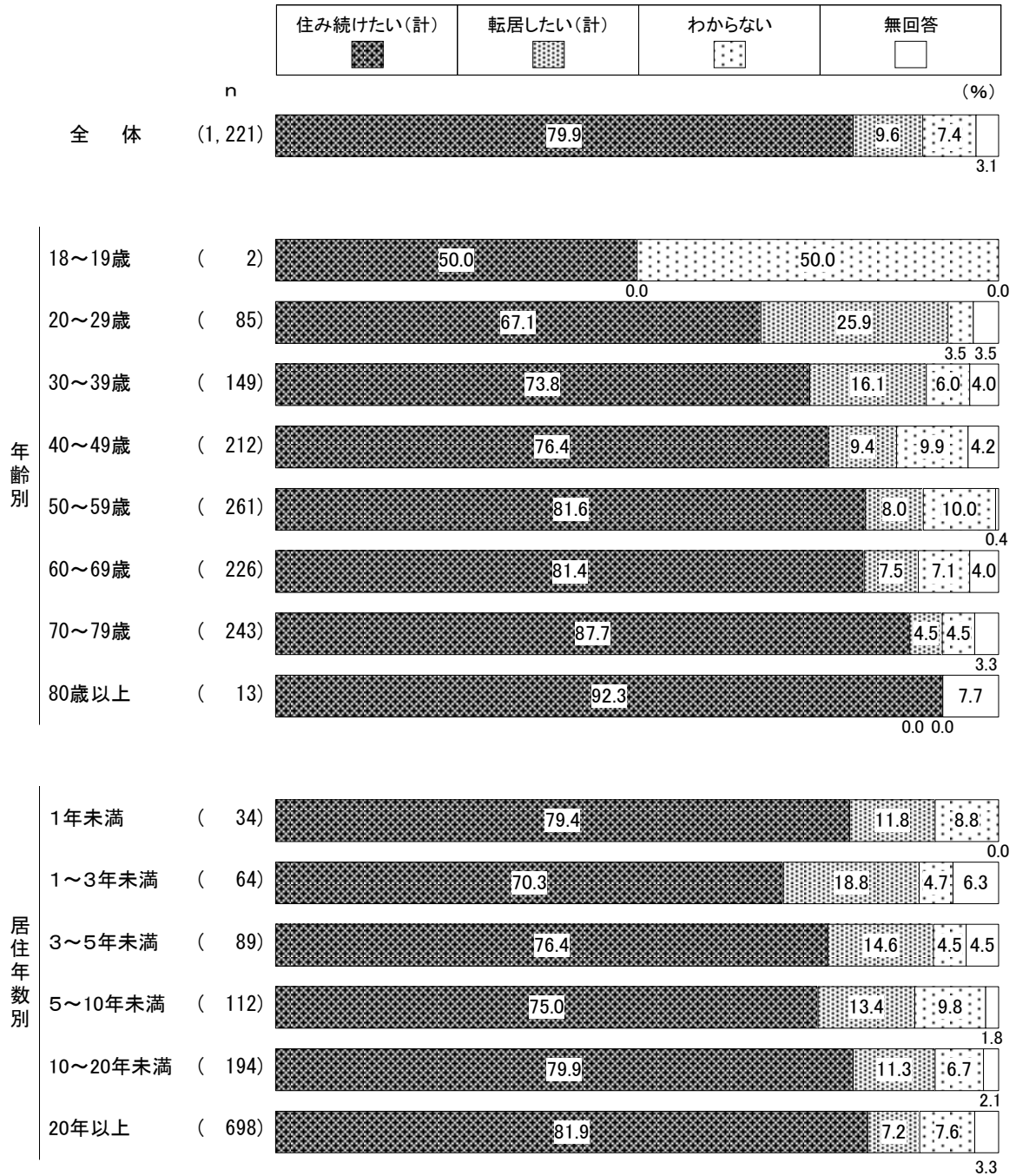
○今後の定住意識を年齢別にみると、『住み続けたい』はおおむね年代が上がるにつれて割合が高くなっており、80歳以上で92.3%となっています。

一方、『転居したい』は20～29歳で25.9%と高くなっています。

○居住年数別にみると、『住み続けたい』は20年以上で81.9%と高くなっています。

一方、『転居したい』は1～3年未満で18.8%となっています。

■今後の定住意識一年齢別・居住年数別



○居住地域別にみると、『住み続けたい』は南畑で86.5%、つるせ台で85.6%と高くなっています。

一方、『転居したい』は関沢で12.2%、水谷で12.1%、針ヶ谷で11.8%の順となっています。

■今後の定住意識－居住地域別

